

日大島根桜信会便り

日大島根桜信会便り第30号【通算34号】
 発行 令和3(21)年8月1日
 日大島根桜信会(日本大学通信教育部校友会島根県支部)
 坂本育穂 〒690-0871 松江市東奥谷町256-3
 Tel 0852-25-1419 Email sikutyan@mable.ne.jp



日
ま
は
り
の
に
花
心
が
ら
に
大
い
な
り
子
規

令和2年度校友会島根県支部役員会 総会はコロナ禍により中止

開催期日 令和3(2021)年3月17日(水) 12:00
 開催場所 松江市殿町 サンラポーむらくも
 出席者 坂本育穂(S42/文・支部長) 宮崎健治(S49/商・副支部長) 岩崎幸夫(S60/法・会計担当幹事)
 周藤 昇(S53/法・幹事) 錦織正明(H10/商・幹事代行)
 *欠席 河津和彦(H11/経・副支部長) 河野義男(S58/商・幹事) 村上謙武(H6/経・幹事)
 酒井實三(H7/商・幹事)
 審議事項 令和2年度会計決算 下表参照
 同会務報告 令和2年3月卒業1名(隠岐郡)あり 他は例年通り特記事項無し

令和2年度 日大島根桜信会決算報告(令和2年4月1日~令和3年3月31日)

収入の部

項目	金額	備考
前年度繰越金	133,274	
会費	21,000	会費14名分
補助金	35,920	日大本部より30,000円(支部総会補助金) " 5,920円(会報発送補助費)
雑収入	0	
計(A)	190,194	

支出の部

項目	金額	備考
本部校友会役員年会費	30,000	坂本(本部常任幹事)10,000円 宮崎(本部副幹事長)15,000円 岩崎(本部幹事)5,000円
支部総会開催費	0	総会中止
会議等出席補助	0	中国ブロック総会延期
郵便代、切手・葉書代	10,270	
事務用品・封筒代	1,904	
口座振替料金	2,561	会費分1,995円 本部補助金分566円
雑費	2,700	「中国ブロック通信」負担金
計(B)	47,435	

次年度繰越金(A) - (B) 142,759円

【各々ご留意】コロナ禍による影響

- 令和3年度第50回通信教育部校友会全国総会は中止となり書面参加となりました。
- 7月1日発行の「通信教育部校友会報」第98号は未発刊となりました。
- 中国ブロック総会 中止または延期の方向にあります。
- 編集者敬白 時流に任せた訳ではありませんが7月1日発行の「日大島根桜信会便り」が8月1日発行となりました。お詫びします。

令和3年度校友会費（年額1,500円）納入の校友ご芳名（令和3年7月1日現在）

井上 明 (H28/文) 岩崎 幸夫 (S60/法) 河野 義男 (S58/商)
 小島昭典 (H09/経) 酒井 實三 (H07/商) 坂本 育穂 (S47/文)
 下山 司 (H01/法) 周藤 昇(S53/法) 田久和剛史 (H20/文)
 錦職正明 (H10/商) 宮崎 健治 (S49/商) 村上 謙武 (H06/経)

(敬称略・五十音順)

毎年のご協力衷心より感謝致します。領収書に換えます。

<令和3年度校友会費未納の方>

上記以外の方 年会費1,500円をお願いします

振替用紙を同封しています。

窓口手数料 203円 (通常払込料金加入者負担)

ATM手数料152円 (〃)

ATMで納入くだされば事務局は51円多く頂けます。

校友の消息

- △移動 錦職正明 島根県教育庁から
県立情報科学高校へ
- △逝去 角 利雄 S33/経 90才
令和2年4月
- 藤井士郎 S35/文 87才
令和2年5月
- 浜松孝雄 S35/文 91才
令和3年2月
- 澤田寿子 S45/商 75才
令和2年12月
- 吉岡正治 H11/経 不明
令和2年3月
- 他 安部通宏岡山県支部長
令和2年7月

近藤 裕 (S44/法) さん・鳥取県琴浦町出身
東京都校友会で活躍中



昭和20(1945)年7月、旧制米子中学(現米子東高校)3年だった15才の近藤少年は学徒動員で米子日本曹達工場へ出勤の為大山口から大社行きの列車に乗った。朝7時頃、突如3両目に米軍機の機銃掃射が打ち込まれた。車内はたちまち血の海と化した。近藤少年はやっとで車外に逃れたが左大腿部をえぐられていた。この時の機銃掃射の死傷者は76人以上に昇る。生存者及び遺族はこれを「大山口列車空襲事件」と名付けて現場跡に慰霊碑を建立。命日の7月28日は毎年慰霊祭を行って、近藤裕さんも事情が許す限り帰郷し、靈魂を慰霊すると共に恒久平和を訴えて来た。現在事件後76年が経過し生存者も一様に高齢化している。 *「山陰中央新報」記事要約



近藤裕さんは昭和5年(1935)年生まれ。米子中学卒業後、大蔵省広島税務講習所卒業。以後、中央大学夜(法)、都立大学(中国文)、拓殖大学院(商修士課程)、日本大学通(経)、慶應義塾通(哲中退)。昭和23年大蔵省広島財務局勤務後、各国税局及び税務署勤務。退職後税理士となり、全国税理士会理事や東京国分寺ロータリー会長、琴浦町東日本世話人会代表、米子市観光協会首都圏観光大使、紺綬褒章受賞、現在91才。

令和3年7月1日号より

思い出の東京お茶の水 「日本学生会館」坂本育穂 松江市東奥谷町 256 - 3 2021/8/1

「7月23日 十条でNHKを卒業したという田中彰に会う。新宿に住んでいるという。私は池袋で降りて西武、丸物デパートを歩き、地下街でコーラを飲む。それから街へ出て、煎茶 300 円、小やかん 180 円なりを買って別れる。彼も日大の事とてお互いに良い相手ができたものではある。」

この下りを少々説明すると、十条とは、東京都板橋区十条で、ここで日本大学通信教育部の入学式があったが、松江北高校協力校で NHK 学園を卒業して今は新宿に住む田中彰に会った、私たちは池袋で降りて西武、丸物デパートを歩き地下街でコーラを飲んだ。私は 300 円の煎茶とお茶を沸かす小やかん 180 円を買って 2 人は別れた。松江にいた田中彰も日本大学通信教育部に入学していて偶然出会い、良い相手に出会ったと喜んだ、というもの。

これは私が日本大学通信教育部に入学した昭和 43 (1968) 年 28 才の冒頭の日記だ。「池袋の丸物」とは何ぞや。資料を見ると、戦前から全国的に店舗を展開した百貨店の一つだったが、次第に低迷を来し昭和 44 年に池袋店を閉鎖しているという。どんな百貨店だったか全く記憶にない。コーラなんかも余り馴染みの飲み物ではなかった。入学式があったのは日本大学に非ず。紛争による大学封鎖で水道橋の大学が使えず、夏期スクーリングは十条の帝京学園となったが、他にも帝京関係の学校施設が周囲に多くあったように思う。大学の学校案内によって水道橋の大学に最も近い積もりでお茶の水の「日本学生会館」をスクーリング宿泊所にして、歩いて 15 分程で日本大学へ行く積もりが、お茶の水から地下鉄で池袋へ出、十条線に乗り換えて行くことになったから、右も左も判らない東京なる大都会など初めての所謂お上りさんの私にとっては大変なことになった。



今は亡き山下嘉三さん (当時 4 年生・昭 43/法) に連れられて、急行はくどで京都着新幹線ひかりで上京している。現今だと列車の場合、特急やくもで岡山着新幹線が普通のコースだが特急やくもの開設は 4 年後の昭和 47 (1972) 年 3 月なのでこれが上京の際の普通コースだったのだろう。中央線お茶ノ水駅下車、お茶の水橋の上からあれが学生会館だよと教えて貰ってナントか 1 人で辿り着いた。山下さん後で曰く、「会館まで連れて行くべきだった」と。のっけからお上りに様々な経験をさせられることになったが、ネットの Wikiwand に依れば、この建物は「文化アパートメント」と称して大正 15 (1926) 年、文化普及會が建設した日本初の洋式集合住宅で、「住居内はすべて純洋式。ベッド、椅子、テーブル、電話、ガス調理台、マントルピース、そして共用の施設として社交室、カフェ、食堂、店舗が用意され、エレベーター、焼却炉が備わっており、掃除・洗濯はメイドが行い、アパートよりもホテルの生活に近かった」、という。戦後は進駐軍将校家族宿舎となっていたがその後旺文社に売却され、日本学生会館として受験生や修学旅行生の都内宿泊施設として利用されたのだが、恐らくこの時に洋式内装が大幅に改変されたに違いない。昭和 61 (1986) 老朽化のため取り壊され、平成 2 (1991) 年に竣工したセンチュリータワーがその跡地に建設されている。現在の所有者は学校法人順天堂で、「順天



天堂大学 11 号館」である。

昭和 43 (1968) 年の「日本学生会館」案内書によると昭和 33 (1978) 年に初めて慶応大学通信教育スクーリング宿泊所に指定されて以後、日本大学が昭和 38 (1983) 年、以下法政大学・昭和 41 (1986) 年、日本女子大学・昭和 35 (1980) 年と指定されそれぞれ慶応 10 回目、日本大学 5 回目、法政大学 3 回目、日本女子大学 8 回目となる等中々の歴史性を持つ。宿泊料金は 1 日 2 食 890 円 (米代 90 円を含む)、私の宿泊日数は 42 日間で計 37,800 円を支払っている。今時の学生の宿泊料金がどの程度か知らないが、料金は恐らく雲泥の差である筈だ。部屋は 6 畳位で岡山 3 人、京都 1 人の計 5 人の相部屋、全館定員は 350 名とある。朝夜の食事は文化ホールと称していた大食堂で摂る。ご飯はおかわりができ、偶に盛り切りの定食に佃煮類の特別サービスの日があったのは嬉しかった。頼んでおくと夕食時間に遅れても食事が別に用意してあって 1 人で食べられたことも嬉しかった。大食堂の朝食時に外国人団体のグループが食べていることがあって、机上所々にガラスの大きな水入れが置いてあったのが印象的で外国人はあんなに水を飲むのかと思った。館内の自販機で買う三角形の牛乳パックが物珍しかった。私の部屋は 3 階だったが 1 回のホールでは夜遅くまで自習ができた。狭い中央ピロティにエレベーターが一台あったが鉄格子付で係の人が 1 人何時も附いていた。

この様に目的を共有した各大学の学生で溢れていたので活気もあり雰囲気も良かった。2 年目も同じような 5 人部屋だったが、今度の同室者は徳島県の人、3 年目は大部屋で隅っこにそれぞれ布団を敷いて席を占めていたが、まるで相撲の大部屋に似ていたかも知れない。全部で 10 人はいたと思う。そこに各県様々の年寄りから若者が同居して、談話やら勉強やら時に酒盛りやらあった。

数日後の日記には「大分東京の生活にも慣れた感がする。とにかく至極便利にできている」「帰りの電車、帝京の仕事に来ている 60 才ぐらいのおじさんが話し掛けてくる。意外と東京の人は人なつっこい」「池袋で買ったお茶と小やかんで熱いお茶を飲みやると心地ついた気がする」等と中々順応が早い。会館前の外濠通りの路面電車の線路撤去作業が夜通し行われてうるさかったのを覚えている。

ところで「メンソレータム」と言えばヒビ、アカギレ等の塗り薬を思い浮かべる人が多からうが、実は 19 世紀のアメリカで開発されたこの薬を日本でライセンス契約を結び普及させたのが「文化アパートメント」設計者 W・M・ヴォーリズで、アメリカカンザス州に生まれた彼は明治 38 (1905) 年英語教師として来日、日本全国に数多くの西洋建造物を建築 (代表的なものに「重要文化財神戸女学院」)、また社会事業家、信徒伝道者でもあった。大正 8 (1919) 年、日本国籍取得、その他 YMCA に関与、褒賞、叙勲を受け近江八幡市名誉市民でもある。現在の「メンソレータム」は「ロート製薬」が製造権を取得、ヴォーリズの後継会社「近江兄弟社」が製造販売している薬に「メンターム」がある。余談だが、「近江兄弟社」は実質的な兄弟ではなく、クリスチャン精神に基づく人間同胞の意味らしい。メンソレータムと「日本学生会館」が結びついているとは思わなかった。

そして 4 年目のスクーリングは、第一回洋上スクーリングで 1 万トンの「コーラルプリンセス」に乗り、小笠原 (S43 年返還直後)・グアム・サイパン・台湾キールン・香港・那覇 (返還以前・返還は S47 年) を 20 日間で周遊、無事所定の単位を取得した。(了)